

し え ん 便 り



特別支援教育コーディネーター等連絡協議会を開催しました！

8月4日(月)に特別支援教育コーディネーター等連絡協議会を開催しました。今年度も、たくさんの先生方にみくまの支援学校までお越しいただきました。

インクルーシブ教育について

～全ての子どもが分かりやすい教育を届けるための工夫～



前半は、本校教諭 望月・有本から、インクルーシブ教育の大まかな内容やみくまの支援学校での実践例について講演を行いました。

講演を受け、後半は分科会を実施しました。校種も勤続年数もバラバラな先生方で、それぞれの学校で行っている実践や困っていることなどについて、ざっくばらんに意見交流を行いました。

★先生方からは、こんな感想をいただいています。

- ・人に認めてもらい、全てのこどもがわかりやすい教育を受けることで、その先の長い人生が輝けることにつながるのだと理解しました。
- ・分科会で、自分が困っていることなど話をしてアドバイスをもらえてよかった。

私たちのグループでは、若手の先生の悩みに、ベテランの先生方が親身になってアドバイスをしてくれました！

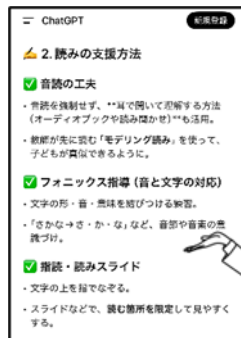


AI が得意なこと・私たちが得意なこと —教育相談の新しい形

今、AI は私たちの生活に欠かせない存在となり、計画を立てたり、悩み相談をしたりとさまざまな場面で活躍しています。最近では、相談事業に AI を導入する自治体も増えており、その波は広がりつつあります。未来には、新宮や東牟婁地域にも「教育相談 AI」が登場し、子どもたちの学校生活をサポートしてくれる日が来るかもしれません。

しかし、AI にはできない「人だからこそできる教育相談」の重要性は変わりません。家庭環境や友人関係、個々の不安など、学業成績や進路だけでは解決できない問題には、人との対話が不可欠です。AI がいくら迅速に対応策を提案しても、目の前の子どもに本当に必要な支援を選ぶのは人の力です。また、支援に必要な教材や教具を実際に手に取って使うことができるのも、訪問型の巡回相談の良さです。

AI のサポートと人の共感が組み合わせることで、教育相談はさらに豊かになります。AI では補えない部分を人が支えることで、子どもたちの成長をより強力にサポートできるのです。ぜひ、巡回相談を活用し、共に子どもたちの未来を支えていきましょう！



『読み書きが苦手な子どもへの支援』って AI にきいてみたけど…具体的にどういうことだろう？

そんな時は…



『みくまの支援学校巡回相談・教育相談』にお申し込みください！

TEL: 0735-31-6101

今月のコラム

集団と自己

F さんは小学生。書きことばの獲得期の諸課題に障害がありました。友だちから「仲間はずれ」にされた経験があり、集団から孤立し、周囲に積極的に関わることができません。寡黙になっていた F さんは高学年になり、施設に入所し度々「噴火」するようになります。他の子どもたちをばかにして自分はそうでないことを強調し、暴力を振るい、集団を壊すこともしばしばありました。指導者は集団で討議し、三つの「教育集団」を用意します。一つ目は生活年齢が比較的共通な集団、二つ目が共通の学習課題をもった集団、三つ目は生活年齢や学習課題の違いを超えた労働・サークル活動の集団でした。それらの集団に参加することで F さんは次第に友だちの「いいところ」を見つけていきます。それは自分を肯定する材料にもなっていました。そしてその関係性の中で F さんは「一ダ！」の世界から「一デハナイダ」へ、そして「一だけれど一する」、「一したい、そのためには一しよう」という生活のきりひらきかたをするようになっていきました。それは書きことば獲得に立ち向かっている F さんにとって豊かな文脈をつくりだすために必要な集団と自己とを結びつける取り組みでもありました。

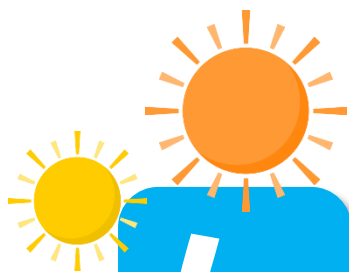
F さんへ手を差しのべたもの。それは、それぞれの目標をもった多様な集団への参加が用意されたことにありました。そのような環境の中で友だちの意外な姿の発見があり、自分が「できること」の気づきがあり、それを繰り返すことでよりよい自分作りへの要求が高められる。多様な集団でそれぞれのつながり・相互関係の中で生まれる必須矛盾※や揺れながら積み上げる小さくとも確かな「自信」が彼らの新しい自分作りの素材になっていく。

生活や教育の中で一つの物差しで悩みもがく子どもたちがひとりでも少なくなりうるように私たち大人が用意するものは多岐に及ぶと思います。

Co 浦木

※必須矛盾：大きくなろうとする自我と他者、集団、友だちとの関係の中で生まれる心理的な衝突・葛藤のこと。当時京都大学教育学部教授の田中昌人は人間の個のまた集団の発達に欠かせないものとした。

引用・参考文献：「発達保障への道」 2006.田中昌人.全国障害者問題研究会出版部



みくまの支援学校支援部

R7年7月発行

し え ん 便 い

汗ばむような日が続き、夏の訪れを感じる季節となりました。

みくまの支援学校では、今年度も『相互往還』の考えのもと、みなさんと一緒に特別支援教育について考えていきたいと思っています。どうぞよろしくお願いします。

今年度の特別支援コーディネーターです。

金田有史 中本憲央 尾崎賀津 望月信吾

中瀬真由美 立溝好美 浦木隆 新開佑香 鍋屋杏実

よろしく
おねがいします



今年度から加わったメンバーの自己紹介です！

はじめまして、金田有史(かねだともふみ)です。地域の方々の困っていることや悩みに寄り添い、子どもたちに必要な支援について、みなさんと一緒に考えていきたいと思

一年ぶりにみくまのへ戻ってきました、立溝好美(たてみぞよしみ)です。

キラキラした子ども達の眼差しに、たくさん刺激を受けて今年も一年頑張りたいと思っています。どうぞ宜しくお願いします。

みくまの支援学校のセンター的機能

センター的機能。それは、特別支援教育の相談センターとしての機能です。みくまの支援学校では、『共に考え、学び合う』相互往還を目指したセンター的機能に取り組んでいます。

今回は、夏に開催を予定している『みくまの支援学校 Co 等連絡協議会』について紹介します。本会は、特別支援教育に関することをテーマにし、講演や情報交換会を通じて共に考え、学び合うという内容のものです。昨年度は、『集団の中で共感と自己肯定感を育む』～9・10歳は具体的思考から抽象的思考・論理的思考への移行期をテーマに開催いたしました。今年度、『インクルーシブ教育』をテーマとして開催する予定です。きっとたくさんの気付きや学びがある充実した時間になると思います。皆様の参加をお待ちしています。

※令和6年度の講演動画についてはアーカイブでご覧いただけます。

よろしければ右記コードよりご視聴ください。



令和7年度特別支援教育コーディネーター等連絡協議会開催のお知らせ

7月初旬にお知らせを送らせていただきました。お手元に届いていますでしょうか？
昨年度は約5年ぶりに対面方式での協議会を実施することができ、たくさんの先生方にご参加いただきました。ありがとうございました。

今年度も対面方式で、「インクルーシブ教育」をテーマにたくさんの方と情報交換や意見交換をしたいと思っています。ご参加お待ちしております！！

《日時》8月4日（月）13：00～16：30

《会場》みくまの支援学校

《内容》「インクルーシブ教育について」

～全てのこどもにわかりやすい教育を届けるための工夫～

総 論：「インクルーシブ教育について」みくまの支援学校 教諭 望月 信吾
実践例紹介：「小学部交流学习から見たインクルーシブ教育」

みくまの支援学校 教諭 有本 松子
各グループに分かれて分科会：「各校が実施もしくは意識して取り組んでいること」
「インクルーシブ教育の課題について」 など

※今年度講演会はありませんので、オンラインでの配信はありません。

《申し込み》

*専用申し込みフォーム、またはFAXでお申し込みください。

*締め切りは7月18日（金）

*お問い合わせは みくまの支援学校支援部まで TEL：0735-31-6101

お申し込みはこちら



いろいろな教材教具

教育相談で使っている教材教具の紹介です。ぜひ参考にしてください。



かたちあわせパズル
(タングラム)



マグ・フォーマー

どの形で作るかな？、どのおきだろう？と、試行錯誤とレベルアップでさら



絵カードとポスト



きくきく
ドリル

「これなんだ？」とクイズをして正解したカードをポストにいれたり、問題を聞き取って答えたりと楽しく言葉に親しめ



クラッシュアイス
ゲーム

順番にルーレットを回して出た数の氷を叩いて落としていくと・・・

待つのが苦手な子も、ドキドキハラハラしながら相手の番